

青森県立五所川原高等学校

住所 五所川原市中平井町三の三

生徒数 男子三七八名 女子五六五名

部員数 男子十七名 女子十二名

顧問名 田中 良治・小枝 輝男

コーチ 加福 明浩

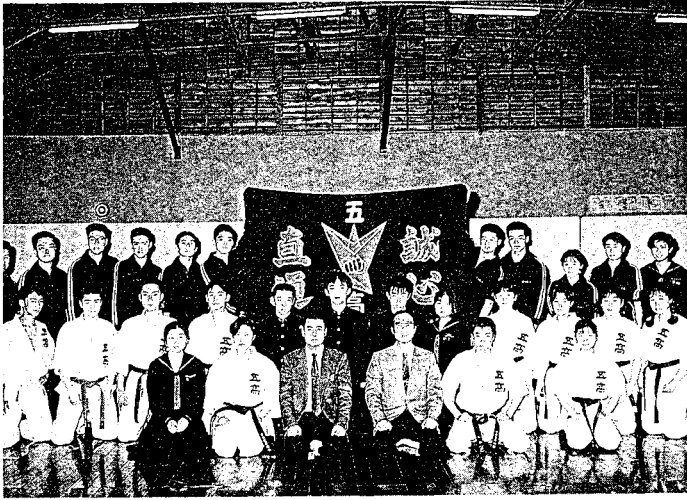
高体連空手道部も二十周年を迎えるという。

私も本校の空手道部を指導するようになってから十八年の年月がたった。私が本校に着任する前は、佐々木先生、野呂先生が御指導になられ、現光星学院高校の安田正先生等の優秀な選手を輩出された。記録によると安田先生等は第二回東北高校空手道選手権大会（S四十七年十一月三日 於弘前市民体育館）団体組手でみごと優勝をなさっており、個人組手の部でも能代工業の選手を破り優勝なさっております。ただ残念な事にこの時はまだ東北高体連には加盟になっておらなかった様です。安田先生等が卒業になられてからしばらくは戦績も低迷していた様です。

昭和50年に本校に参りました。部員数は男女合計で三十名程だったと思います。素質のある子供達がけっこう居りまして指導のしがいがあるなと思ったものです。中でも三年生に平山千代和という生徒が居りまして、この生徒が私の所にやって来まして、「どうしても優勝してみたい。どんなきつい稽古でもいとわないから、自分を鍛えてほしい。」と、そんな事を言ったと思います。顔つきも負けん気が強そうだったし何とか物になりそうだったので、

朝五時から稽古に出ました。女子の生徒もそれに同調しましたので毎朝五時出校です。五時前に出校して、道場で勉強している生徒も居りました。とにかく彼らは私の言う通りどんな事でもやりました。私の指導する通りに出来ない場合は容赦なく竹刀でたたきました。生徒は泣きながら稽古していました。不思議に一人として脱落する生徒はおりませんでした。結果、その秋の選手権大会で平山は青北の秋田選手を破って優勝、女子も佐藤が二位、女子団体型は二位でした。その事があってからです。それからの指導に自信がもてたのは。個人的興味において私は型が好きでした。何とかこの子供達にも団体型で優勝させたいと思うようになって居りました。初めての団体型優勝は忘れもしない、昭和五十三年春季大会でした。これを第一回の優勝として何回続けてゆけるか、最初は二〜三度くらいの物だろうと思って居りましたが結果として第二回東北高体連空手道大会（於仙台）での優勝も入れて昭和五十三年春季大会から昭和五十六年高総体の間で計十回の優勝をなしとげることが出来ました。二位が二回ありました。十二回全部の優勝をねらっていたのですが型はメンタルな要素が非常に多く演武するのは子供達ですので、いたしかたのない場合もあります。今考えてみましても我ながら良くやったものだと思います。子供達もキャプテンを中心に大変良くまとまっておりました。稽古中でも怒鳴られるとすぐキャプテンの所に集合して、どこが悪いのかと話し合いをしていました。そういう子供達の姿勢が勝利へとつながったと思います。私は彼らのすばらしい才能にほんの少しの手助けをしたにすぎません。

当時の合宿練習は夜の十一時十二時まで続けられました。誰一人音を上げる者もありませんでした。女子の生徒達は十二時までの練習が終了すると抱き合って泣いていました。練習がきつくて泣いているのかと聞いてみますと、そうではなく、きつい練習に自分自身が良く堪えたことに対する感動で泣いているのだと言って居りました。寝不足で授業に臨んでも決して居眠りする事は許さない、具合が悪くなると保健室等へ行く事は部全体の恥である、これらは今でも続けて居ります。あの頃は、優勝だけが最高の価値であり、二位以下は敗者と同じ、だから優勝するしかない、と言って聞かせておりました。試合中は決して退ってはならない、



相手に当てられても痛い顔をするな倒れるな、常に前に出る、気迫で相手を圧倒しろ、とそんな事はばかり言って居りました。本当に私も未熟者でした。

今の子供達だったら誰もついてこないかも知れませんが、続けて十回程優勝した中の最後の頃のキャプテン成田道稔君（現県警の警察官）、副キャプテン加福明浩君（現本校コーチ）の二人が合宿練習の後で部員達

にこう言っていた事を思い出す。「いいか、練習は今日はこれまでもだが、本当はまだあるんだ。各自、床に就いて目をつむったら型を通して三回やってみてくれ、もちろん頭の中で、それが終わらねむってくれ」、そして団体型の選手達はそれを言われた通りに実行していたという。今でも忘れられない言葉です。

組手においても優勝もあった。この時もすばらしい子供達がいる。藤田巨君（現県警察官）。特に思い出深い選手、それまで本校から入部の実績のなかった国土館大に入った長谷川圭一君、彼は長期休業日の練習には、一日二時間の練習の為に列車で四時間強をかけて通って来た。しかもキャプテンの為、休んだ事はなかった。

このところ個人優勝はポツリポツリとあったが、団体は鳴かず飛ばずであった。昨年からは元副キャプテン（国土大空手道部出身）加福君が週二回、コンスタントに出て来てくれて指導してくれている。いい選手もそろっている。ないかいい予感がしている毎日です。